ニュース玉手箱

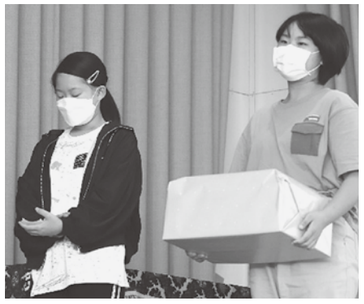
色鮮やかに 和布で猫の人形作る

きらめき女性セミナー「和布で猫の人形を作る」が、9月2日（木）、9日（木）、16日（木）に虹のプラザで開催されました。

これは、古い着物などの和布を使った猫の人形作りを楽しんでもらおうと、ちくちくごんじゅの五十嵐純子さんを講師に迎え開催したものです。

2回目の9日（木）は、町内から5人が参加して、五十嵐さんに基本的な作り方を教わりながら、色鮮やかな猫の人形を作っていました。

齋藤元希選手が小学校3校を訪問



町出身パラリンピアンの齋藤元希選手（豊田出身）が、9月16日（木）、17日（金）に町内の3つの小学校を訪問し、児童たちと交流を深めました。

このうち、大石田小では、9月17日（金）に交流会が開催され、全校児童195人が参加し、同校の卒業生でもある元希選手の訪問を歓迎しました。感染症対策のため、4～6年生が会場で、1～3年生はZOOM（ビデオ・Web会議アプリ）を通して教室からの参加となりました。

交流会では、元希選手から東京パラ大会に向けた取り組みや大会を通しての感想などが児童に語られたほか、児童から元希選手への質問コーナーが設けられ、「水泳をはじめたきっかけ」や「尊敬する選手はいますか」などたくさんの質問が寄せられ、元希選手は児童の質問ひとつひとつを丁寧に答えていました。

最後に、児童を代表して6年生の熊谷玲奈さんと神部麗さんから元希選手に記念品が贈られ、児童たちで元希選手のさらなる活躍を願い応援しました。

児童や生徒が陶芸を堪能

⇒石塚花凛さんの『ねこばす』は、この後の乾燥や焼き入れの工程で割れないように細部をデフォルメするなどの工夫が凝らされています。

町内の小・中学生を対象とした陶芸教室が、9月14日（火）、15日（水）、21日（火）に各学校で開催されました。

これは、小・中学生に大石田の土を使った陶芸体験を通じて、ものづくりの面白さやふるさとに対する郷土愛を深めてもらおうと、大石田町地域学校協働本部と町内各小・中学校が企画し、講師として大石田焼のブルーノ・ピーフルさん（川前）や、次年子窯の高橋廣道さん（次年子）などに協力いただき開催したものです。

このうち、大石田北小学校では、9月14日（火）に陶芸教室が行われ、6年生児童21人が参加しました。児童たちは、講師の指導を受けながら、皿やカップなど工夫を凝らして作っていました。

あったまりランド深堀の陶器浴槽『ねこばす』のミニチュアを作った石塚花凛さんは、「最初はあまりうまくできなかったけど、先生にアドバイスをもらったり、周りのみんなの作品を見せてもらったりして作ることができました」と話していました。

さんどこどっこい! 児童が和太鼓学ぶ

ふるさと塾「和太鼓教室」が、９月３０日（木）に大石田北小で行われ、５年生の児童１２人が雪国鷹巣太鼓保存会（延澤健治代表）のメンバーから和太鼓を学びました。

これは、山形ふるさと塾推進協議会が地域文化の伝承を目的に実施している「ふるさと塾」を活用したもので、昨年に続き、雪国鷹巣太鼓保存会の協力で毎年行われているものです。

この日は、保存会のメンバーの指導を受けて、ばちの持ち方や立ち方、太鼓のたたき方などを学びました。参加した児童は、「ばちの持ち方で、親指と人差し指で持つのが難しかったけど、うまくたたけるようになって良かったです」と話していました。

吉田兄弟に三味線を学ぶ

吉田兄弟による三味線教室が、9月17日（金）に虹のプラザで行われました。吉田兄弟は、北海道登別市出身の津軽三味線の兄弟奏者で、日本伝統芸能の枠を超えて幅広い分野で活躍中です。最近では、津軽三味線を題材にしたアニメ「ましろのおと」（羅川真里茂氏原作）の監修を行い、話題になりました。

この日は、本格的な三味線を学べるということで、町内から10人が参加し、伝統的な日本の歌曲「さくらさくら」を題材に三味線を学びました。三味線には、ギターなどで言うフレットがないため、どこの弦のどこで弾くとどの音階の音がでるのかを視覚的に覚える必要があり、参加者は、苦戦しながらも楽しそうに、自ら奏でる三味線の音色を楽しんでいました。

圧巻の演奏 三味線で来場者を魅了

虹のプラザ自主企画事業「吉田兄弟～三味線だけの世界～」が、９月１８日（土）に虹のプラザで行われました。

津軽三味線は、ばちを叩きつけるように弾く「打楽器的奏法」と、「テンポが速く音数が多い楽曲」に特徴があり、現代では独奏楽器としての一面が強調されています。

この日は、吉田兄弟の演奏を聴こうと町内外から237人が来場し、２人が奏でる力強く情熱的な津軽三味線の音色に聴き入っていました。